

電子本を作ろう！

高野敦志

目次

はじめに	1
ガリ版からインターネットへ	3
電子書籍との出会い	7
ePub3とこの規格	11
PDFの電子書籍を作る利点	19
コンテンツをどうするか	22
推敲について	29
電子書籍の作成	44
EPUBファイルの縦書きと目次	60
写真集と電子書籍	63

63 60 44 29 22 19 11 7 3 1

公開する際の注意点
読者を獲得するために
電子書籍を読む方法

Kindle for PC

電子書籍ePub3の脚注

最近の読み上げソフト

電子書籍を再編集する

一太郎2016について

電子書籍に音声を組み込む

iOS版のKindleアプリ

一太郎でmobiファイルを作る際の注意点

縦書きの三点リーダーが横向きに？

電子書籍で漢文を表示する

一太郎PadのOCR

一太郎2021プラチナをインストールした

詠太の読み上げ機能について

電子書籍を小冊子にする

画像のある電子書籍

おわりに

159147145139134131129

124122119109103 97 90 86 81 76 73 66

はじめに

本書はインターネットで電子書籍を作る方法を、僕自身の持つ情報に基づいてまとめたものである。国際的な電子書籍の規格、ePubは当初、横書きしかできないものだったが、ePub3の規格からは、縦書きやルビなど、日本語特有の組み版が可能となった。

ePubは画面の大きさに合わせて1行あたりの文字数が変えられるので、携帯端末などで読んでもらう場合に適している。その一方で、大抵のパソコンにはAdobe Acrobat Readerがインストールされており、レイアウトに凝りたい場合などはPDFが適している。またPDFの場合、実際に印刷して製本すること

も可能である。

ePubを作る方法はいくつもあるが、HTMLの知識が不要で、かつ初期投資の少ない方法として、ジャストシステムの「一太郎2012承」以降で、電子書籍を作成する方法を紹介することにする。このソフトウェアを使用することで、縦書きやルビを実現したePubや、固定した書式でファイルがやりとり可能なPDFを、ほぼ同時に作成することができるからである。「一太郎2016」ではePub3の規格にさらに則った形でePubが作成されるので、バージョンアップした方がいい。

ここでは、電子書籍に関する基本的な情報を提示した後、文章を作成する上でのノウハウ、電子書籍の作成方法、その公開の仕方などを述べていく。

ガリ版からインターネットへ

作家の宮沢賢治は、自身の作品を謄写版とうしゃばん、いわゆるガリ版で刷って、配布して回ったという。ガリ版の発明自体、活字によらない印刷として画期的なもので、文集やパンフレットを安価で生産することを可能とした。新人類と呼ばれた世代が小学生だった一九七〇年代、学校の試験の多くは、まだガリ版を用いて作られていた。蠟ろうび引きした紙をやすり板の上に置き、鉄筆でカリカリ書いていく音は、父が教員をしていた僕にはなじみ深いものだった。

ワープロが発売されると、大学を卒業したばかりで余裕がなかったのも、妹と半額出し合って十数万円もする機械を購入した。活字に権威を感じていた世代の僕らにとって、自分の文章がすぐさま活字で表現されるというのは、まさしく夢のような喜びだった。

パソコンが普及し始めてからも、ワープロで作ったデータは無駄にはなっていない。ファイルの多くはプレーン・テキストの形で、パソコンに保存することができたからである。デジタルデータは場所を取らず、複製や変更が容易である。原稿用紙の余白がなくなるほど、推敲を重ねていた時代と異なり、デジタルデータでは推敲に伴う煩わしさは、大幅に軽減されることになった。語句の挿入や削除、文章の前後の入れ替えなど、簡単な操作で行えるようになった。

手書きの作家からは、ワープロやパソコンの文章では、推敲

の跡が残らない点などが批判されたが、もとの文章で気になる部分は、「断章」という形で別ファイルに保存しておく、推敲を重ねるうちに、元の文章を復元しなくなったら、「断章」からコピーしてくればいいだけの話である。また、当初、一般的だった文字コード Shift-JIS では、使用可能な漢字に多くの制限があったが、ユニコード・テキストによる保存を選択すれば、大概の漢字は表記できるようになった。

パソコンでの執筆が一般化するにつれ、推敲に推敲を重ねる際の負担が減るとともに、悪筆の原稿の判読に悩まされることもなくなった。コンピュータの普及によって、インターネットの時代が幕開けし、情報の発信はマスコミなど一部の組織が専有する権利ではなくなった。

インターネットの出現によって、個人が情報を発信できるようになると、わざわざ人間が配布して回らなくても、必要とする側がサーバー上のファイルを、いつでもダウンロードできるようになった。インターネットの誕生が、グーテンベルクによる印刷術の発明に匹敵する影響を、人類に与えたと言っても過言ではないのである。

電子書籍との出会い

僕が初めて電子書籍に触れたのは、インターネット図書館のサイト「青空文庫」においてだった。それはまた、『新潮文庫の100冊』などの電子書籍のソフトウェアが市場に出て、出版側の予想を超えた好評を博した時期でもあった。紙の本に対する魅力は捨てがたいものがある反面、インターネットの時代に、低コストで不特定の読者に、瞬時にして配信可能な電子書籍に、出版の可能性と将来性を感じた僕は、自分自身でも制作したいという思いに駆られた。

その電子書籍こそ、現在でも「青空文庫」からダウンロードできる「エクスパンドブック」だった。これは見やすいのに驚

いた。モニターの解像度を考えて、印刷用の本よりはフォントを大きくして、1ページあたりの文字数を制限している。もちろん、縦書きとルビもサポートしている。モニターが明るすぎないように、背景を黒とすることができるし、ページ自体も目に優しいように、淡い色がつけられる。表紙や目次も設定できるし、写真はもちろんのこと、ビデオも挿入可能である。しおりや検索機能も付いている。マウスでクリックすると、ページがめくられるときのような音までする。至れり尽くせり、といった感じである。

早速、僕は「エクスパンドブック」を作成するためのオーサリングツールを、ボイジャー社から購入した。結構値が張る物だったけれども、自分自身でホームページを運営していた頃、

デジタルの本が作れるこのソフトウェアで、いくつもの電子書籍ファイルを公開していた。

ただし、「エクスパンドブック」は、正式には WindowsMe までしかサポートしていない。すでに過去の存在と言っている。「青空文庫」ではいまだに多くのファイルがダウンロード可能となっているが、最近デジタル化された作品には、「エクスパンドブック」版はない。

そのほか、かつては XMDF という規格が広く流通していた。その理由としては、ブンビューアというソフトウェアを用いれば、パソコンや多種の携帯端末で開ける点が挙げられる。一時は XMDF を作成する無償ツールも提供されたが、後述する ePub や Amazon の Kindle など、黒船ともいべき後発の規格

に席巻せっけんされていった。

ePub3という規格

アップル社から iPhone や iPod touch、iPad が発売され、電子書籍の分野でも大きな変革が訪れるのでは、と期待された。Sony から発売された読書端末 Reader は、先述したドットブックや XMDF の他、PDF や TXT、さらには ePub などにも対応している。また、Amazon の Kindle も第三世代からは、日本語のフォントを内蔵し、縦書きやルビなどに対応するなど、読書端末の中ではシェアを広げている。ただ、Kindle の場合は、ePub を直接読み込むことができません、Kindle Previewer で mobi 形式などに変換する必要があるが、Kindle 端末ごとに与えられたメールアドレスに、ePub ファイルを送るだけで、Kindle で閲覧

できるようになった。

国際的な電子書籍に関する規格 ePub3 が発表されて以降、日本語の縦書きやルビなど、日本独自のレイアウトもサポートされることになった。それとほぼ同時に、ジャストシステムから「一太郎2012承」が発売され、一太郎ファイルから簡単に、縦書きルビが表示で、写真などを挿入した ePub ファイルが作成できるとされた。僕が再び、電子書籍作成に興味を持ったのも、実は「一太郎2012承」を購入したことと無縁ではない。

このソフトウェアを用いれば、縦書きルビの形式で写真などを貼り付けた一太郎ファイルが、瞬く間に ePub に変換されるので、レイアウトに用いられるタグ、すなわち、電子テキストの論理構造を表現する記号を知らなくても、容易に ePub の電

子書籍が作成できるのである。

国際的な規格である ePub の利点の一つは、音声ファイルや PDF などと同様に、iTunes store から podcast という形で、多くのユーザーに提示できるという点である。podcast は個人でも自作のコンテンツを、無料で配布できるシステムである。これはホームページで電子書籍を公開するよりも、はるかに多くの人々に自身の作品を見てもらうチャンスをもたらす。しかも、携帯電話の多くがスマートフォンとなり、半数近くが iPhone であることを考えると、若い世代のユーザーに作品を提示する絶好の機会と感じられた。

ただし、当初は日本語の表示に問題があった。ePub3 への各社の対応には時間を要したからである。日本語のように縦書き

を用いる言語が、少数派であることも関係していた。

二〇一二年十月末になり、状況に明るい兆しも見えてきた。アップル社が提供するアプリ、iBooks はアップデートして、バージョンが3.0となり、ようやく ePub3 の縦書き表示に対応した。これは iPhone や iPod touch だけではなく、iPad にもインストールできる。フォントの大きさが調節でき、ページを指先でめくれるのもちろんのこと、縦書きのルビも表示され、内蔵の辞書との連携もでき、キーワードの検索も可能である。ePub 内の写真もきちんと表示されている。

その他に、紀伊國屋書店が提供している Kinoppy は、パソコンのほか、iPhone や iPod touch、iPad、Android 用のソフトウェアが用意されている。無料で配布されており、Kinoppy (for iOS)

なら、ePub 以外に PDF や TXT、コピーコントロールされていない XMDF も開けてしまう。パソコン対応に関しては、Kinppy がもつとも、紙の書籍を忠実に画面に再現したものとと言える。

ブラウザで対応が進んでいるのは、Google の chrome であるが、Radium というアドオンを組み込む必要がある。縦書きやルビに対応しており、ePub をライブラリで管理することができる。文字の色や大きさ、余白、背景なども調整できる。紙の本に近いレイアウトにする場合は、背景が白で文字を黒くし、表示形式を「ダブル」にすればよい。

ブラウザの Firefox にも EPUBReader というアドオンがあり、長らく横書きにしかできなかったが、現在ではすっかり縦書きやルビにも対応した。chrome か Firefox をインストールしてい

れば、アドオンを追加するだけで、ブラウザを開く気軽さで電子書籍が読める環境が整ったことになる。

ちなみに、Internet Explorer は未対応であり、ePub をダウンロードすると、拡張子が zip になってしまうので、拡張子を epub に変更しなければならぬ。Edge に関しては、一時は ePub に対応したが、現在では開くことができない。こうした点などは、一般の利用者には分かりにくいだろう。

なお、電子書籍を読む専用の端末には、ソニーの Reader や楽天の Kobo Touch などがある。後者の場合、拡張子を ePub から kepub.epub に改める必要がある。そうした中で、アマゾンの Kindle Paperwhite が最有力候補と目される。アマゾンのユー

ザーなら、メールアドレスとパスワードの設定で、無料で提供されるクラウド上に、mobi形式などの電子書籍が保管できるからである。

Kindle が読み込む mobi 形式のファイルは、国際的な規格である ePub を、アマゾンが独自に拡張したものとされる。パソコンでダウンロードしたり、自作した、mobi ファイルはもちろん、PDF や txt などでもクラウドの指定されたアドレスへ、添付ファイルの形で送信すれば、同期する形で Kindle に転送される。

ここで注意すべきことは、mobi ファイルは読書端末の Kindle で読むことが前提となっている、という点である。IOS 用アプリの Kindle では、縦書きのファイルでも、ルビが削除されて横書きに表示されてしまう。ただし、アマゾンからダウンロードした電子書籍は、たとえ価格が無料のものでも正常な縦書きが維持されている。

PDFの電子書籍を作る利点

では、新たにソフトウェアをインストールすることなく、誰でも見られる形式のファイルは、というと、大抵のパソコンには Adobe Acrobat Reader がインストールされているから、PDFならダブルクリックするだけですぐに読める。縦書きもルビも当然可能で、検索機能も付いている。写真などを組み込んで、凝った制作をした場合でも、PDFならレイアウトが崩れることなく表示される。

PDFが電子書籍かという疑問をお持ちの方も多いだろうが、表紙をつけて最適化したレイアウトを施せば、立派な電子書籍として体裁を整えることができる。印刷した本とは違って、PDFを画面で見える場合には、フォントをやや大きめに設定し、各ページの大きさを小さくして、余白が黒で表示されるように、フルスクリーンモードで表示すればいい。まぶしさによる目の疲れを防ぐためである。これに関しては、電子書籍を作る方法を説明するときに、詳しく述べることにしよう。

しかも、印刷することが可能なので、少数でも引き受けてくれる業者に頼めば、数部を紙の本として製本することもできる。機械に不慣れな年配者には、やはり紙の本が一番だからである。ちなみに、以前ネットで公開したPDFの作品を、親族や友人にも見てもらおうと、小冊子を作成したことがある。通常の自費出版なら百万円かかる。そんな大金がなくても、表紙のデザインから目次の作成までしておけば、小遣い程度の費用で作

成することは可能である。

ただし、印刷屋に出す PDF は見開きの形式ではなく、一ページずつ表示するように、「一太郎」で設定し直さなければならぬ。僕が頼んだ大阪の業者は、百ページで五百円、五部以上なら引き受けてくれた。十冊作って五千元、一部五百円かかったことになる。

コンテンツをどうするか

どんな電子書籍を作ろうとお考えだろうか。手持ちの文章を書きためていけば、エッセイ集とか旅行記や、自分史を残したいとか。中には自分の小説や詩集を發表したいとか、人それぞれ動機は異なるだろう。

ここでは、文章を中心とした電子書籍の作り方を考えていきたい。エッセイや小説の書き方は、他書に当たっていたたくこととして、書く材料をどうすればいいかという、基本的な問題に限って考えることにする。

僕の場合、中学生の頃に、父に日記を書くように言われて、五十代となった今でも書き続けている。日記というものは、型

にはまらず自由に思索する上でもってこいである。ただ、コンピュータでプレーン・テキストの形で日記を書くようになったのは、二〇〇七年からのことである。それ以前の記述はノートを読み返すしかない。今から日記を書くこととなさっている方には、ぜひとも、デジタルの形で記録することをお勧めしたい。

その際、エディタでもワープロのソフトウエアでもいいから、ユニコードのプレーン・テキストで書くこと。Shift-JISでは、用いることができない漢字が多く出てきてしまう。写真を貼り付けられる日記のソフトウエアなどは、たとえ外観が良くても使ってはいけない。OSが変わって開けなくなつては、それまで集めた情報が無駄になってしまふわけだから。

デジタル化した日記は、あなたにとつて、生きてきた証あかしに

なる。語り合った際に心に残つた言葉、街角で見かけた美しい風景、旅先での出会いの一コマ、何でもいいから、後で思い出せるように書き残しておく。この習慣を続けていけば、あなたの人生は過去から連綿と続く時間の流れとして、確実に心の中に刻み込まれ、その文を読み返すときには、かつての感動が現在の出来事のようによみがえってくる。人に見せる文章を書く前に、そうした習慣を身につけておくことが大切である。

あとはやりとりしたメールの一部でも、記憶に残したければ日記に貼り付ける。iPhoneなどの携帯端末で書いたメモは、メールか一太郎 Pad でパソコンに移動させ、日記を書くときに推敲すればいい。すぐに役立たなくても、アイデアは確実に集積していく。

何かのテーマで文章を書きたくなったら、エディタやワープロの検索機能を用いて、日記のキーワードを順にたどっていく。その語が含まれた文を見渡して、書こうとしている文章の全体を思い描いてみよう。

ただし、パソコン上の日記は、まだ人に見せられるような代物ではない。膨大な文章の中で使える部分は、ごくわずかである。また自分では理解していても、いきなり本題からでは、読者に理解してもらえないこともある。日記とは別に、人に見せるための文章も書きためていった方がいい。

それがブログである。多くの人はブログを、単なる日記と取り違えている。うちの子どもが運動会で一等賞になったとか書

いても、喜んでくれるのは身内かせいぜい友人だけである。第三者にはあまり関心がない。facebookに僕が乗り気でないのも、それが人間関係を構築するには役立っても、書かれている文章自体は、読み返すに値しないものがほとんどだからだ。

個人で書く日記は単なる素材に過ぎず、そこから文章になりそうな部分を抜き出し、一つのエッセイなどに膨らませていけばいいのである。日記をつけることと、ブログを書いていくこと、これをあなたの日課にしていくといい。

では、ブログを始めるとして、どんなサービスを選ぶべきかというと、podcastに対応していて、アクセス解析ができるサイトが望ましい。その条件に合致しているのが、Seesaaのブロ

グである。無料で続けられるし、書いた文章に毎日どの程度アクセスがあるか、確認できるからである。それによって、どんなテーマに関心を持たれているか、どんな文章が好評をもって迎えられたかが分かる。

無料の情報発信とはいえ、文章を書くことを人生の中枢に据えていきたいなら、ブログは文章修業の実践の場だと考えられる。テーマによっては、読者からの反応も得られるし、アクセスが増えていけば、新たな文章を書く励みにもなるからである。ブログはテーマ別に分類可能であるから、複数のジャンルに文章を分けて登録するといい。ブログに載せたものは、アップロードするごとに、ジャンル分けした形でエディタやワープロに保存しておくこと。これを怠ると、せつかくのブログが書き

っぱなしになる恐れがある。

文章を書きためたところで、電子書籍を構成するに足る文章があるか、特定のジャンルのものを確認する。例えば、あるテーマのエッセイ集を出すとしたら、何が足りないか考え、全体の構成を思い描いた上で、補うべき部分を日記で下書きし、推敲したものをもブログに発表する。

章立てが決定した段階で、ワープロかエディタで空のファイルを作成し、予定した章ごとに貼り付けてみる。全体を読み直して、不足した部分を書き足していき、重複した部分を除いて、全体の調和を図るのである。

推敲について

推敲は気の済むまで行った方がいい。説明不足の点はないか、同じ内容が重複していないか、文が冗漫すぎないか。書いた文をすぐに人に見せるのではなく、最低一日おいて読み返した上で書き直すと、自分の文章の欠点を見つけやすい。また、声に出して読んでみると、文章上のリズムをつかむ感覚が得られる。文章を推敲していく際のこつについて、詩人で仏文学者の窪田般彌はんや先生に教えていただいたことがある。それは類語辞典を用いるということだった。どうしても的確な言葉が見つからないとき、類義語から目当ての表現を探し当てることができらるらである。僕は早速、角川書店の『類語国語辞典』を買った。

これは後述する『角川類語新辞典』を増補したものである。

類語辞典は物書きには必須の辞典だが、実際に考えながら書いている(キーボードを打っている)ときには、紙の辞書を引いたりしてしていると、思考の流れが途切れてしまう。的確な言葉が頭に浮かばないと、文が続かないような折でも、ゆっくり辞書を引いてはられない。

そんな場合には、ソフトウェアとなった辞書が便利で、とりわけ、ワープロソフト「一太郎」に付属している ATOK の連想変換という機能が有効である。これはキーの操作だけで、類義語が列挙されるわけだから、これほど便利なものはない。

ATOK には『日本語つかいさばき辞典』が付属しているが、『角川類語新辞典』や『新明解類語辞典』もオプシオンでインストール

ールできる。それらは相互補完の関係にあり、一方にしか出てこない類義語がたくさんある。なお、『角川類語新辞典』と『新明解類語辞典』は語釈が丁寧で、例文などもついているので、ATOKの連想変換の機能をフルに生かすには、いずれかのインストールが必須だと思われる。

さらに「一太郎2013玄」のプレミアム版を購入すれば、複数のATOK用辞書『大辞泉』『角川俳句歳時記』『ジーニアス英和英辞典』など、単体なら高価な電子辞書が付いており、ATOKの「連想変換」に組み込まれることで、これらの辞書の語釈も加わる。

さて、ソフトウェア化された類語辞典は、他にもいろいろあ

る。学研から発売されていた『Super 日本語大辞典 全 JIS 漢字版』（生産終了）には、簡単なシソーラスがついているから、たいていはこれで間に合ってしまう。『明鏡国語辞典』にも類語・関連語の項目があるが、この手の物で最大規模の収録語数を誇るのが、PC用のロゴヴィスタ版『日本語大シソーラス』である。

これは膨大な語や慣用語が収録され、古典からの引用も多いので、購入を考慮しておられる方も多いだろう。書籍版は重すぎるから、書棚のインテリアになるのが落ちである。iPhoneなどをお使いなら、iTunes StoreからiOS版も買えるけれども、他の辞書との連携ができない。もし迷っておいでなら、PC用のロゴヴィスタ版をお勧めしたい。

ところで、この『日本語大シソーラス』の編者、山口翼たすく氏は言語学者ではない。小説を書くために、自分の語彙を増やそうとして、用例をかき集めているうちに、それが稀代の大シソーラス編纂へと結びついたというのである。中国の古典から俗語に到るまで、引用された表現の多様さには目を奪うものがある。収録されたものをざっと眺め渡すだけでも楽しい。文章を練り上げていく過程で、どうしても的確な表現や慣用句が見つからないときなどに、心強い味方になると思った。

ただし、問題点がないわけではない。PC用の『日本語大シソーラス』は、普通に言葉を入力して類義語を探そうとしても、その言葉がヒットしないことが多いのである。その点が『角川

類語新辞典』などとは大いに異なる。では、どうやって引いたらいいか。

Logovista 辞典ブラウザを用いる場合、検索欄に何も入力せずに「メニュー検索」をクリックすると、「トップメニュー」が現れる。これは国立国語研究所の『分類語彙表』に基づく分類である。「抽象的関係」「位相・空間」「序と時間」といった大分類が現れる。「抽象的関係」をクリックすると、「関係がある」「関係がない」「影響」といった中分類が現れ、さらに「関係がある」をクリックすると、小分類の「関係ある」「縁がある」「縁続き」などが現れ、その下位に実際の類義表現が列挙されているのである。推敲している折などには、この方法で的確な言葉を探していけばいい。

ちなみに、推敲する際に音読する代わりに、コンピュータに読ませるという方法がある。かつては実用とはほど遠い水準だったが、「一太郎2013玄」以降のプレミアム版を購入した場合、文章を読み上げる機能「詠太」を利用するのもいい。それがどの程度のものであるか、デモンストレーションで確認してみるといいだろう。

男性2名、女性2名、英語話者1名の声の中から選択し、話すスピードも調整できる。自分が書いた文章を読ませてみると、耳で聞いて快い文章であるかどうか分かる。練り上げた文章なら、他人に読んでもらったような印象を受ける。

ルビがついている場合も、ルビの部分だけ正確に読んでくれ

る。ルビの表記については、印刷する場合は、拗音の母音部分も大きい字で表記するのが通則である。ただし、読み上げ機能を使用する場合は、拗音の末尾の部分は手書きのように、小さい字で入力するようにする。實用レベルに達していることは確かで、発音が複数ある漢字や、固有名詞などで読み間違えることはあっても、イントネーションもおおむね共通語に則っている。

推敲のほかに、「詠太」に他人の文章を朗読させてみよう。文章をマウスで選択してコピーし、プラグインの「どこでも詠太」に、ネット上のニュースを読ませてみるといい。アナウンサーに読んでもらっているようであり、疲れているときに耳で

ニユースを確認することができる。

「青空文庫」の文学作品は、新仮名でルビなしのテキストを読ませるといい。ルビがついている場合には、「一太郎」に本文を貼りつけて、手作業で入力しなければならぬが。XHTMLファイルのままだと、漢字の発音とルビの部分が重複して読まれてしまう。

最後に、「詠太」に正確に読ませるための方法について、補足しておくことにしよう。「詠太」も「一太郎2013玄」でバージョンアップされ、読み上げの精度をさらに高める機能として、「CSV ファイルから辞書への一括登録」が可能となった。一つ一つの単語を登録するのが煩瑣な場合、ATOK などのIMEに

登録されている語を、登録することも可能である。

ただし、ATOK と「詠太」とでは、用語や分類の基準が異なり、単語と読みの表記、項目の提示順序など、さまざまの違いがあり、自動で変換することはできない。まずは、「詠太」の「辞書作成ツール」を確認しておくといい。人によって環境が異なるので、一つ一つの手順を示すことはできないが、その人なりに解決するヒントを、以下に説明していくことにする。

ATOK の「メニュー」から、「辞書メンテナンス」「辞書ユーティリティ」を起動する。次に「ツール」から「単語・用例の一覧出力」をクリックする。登録可能な例は5000程度である。「単語出力」のタブで、「Unicode で出力する」にチェックを入れ、単語種類は「登録単語」に限る。対象品詞は「設定」で

固有名詞などを選択する。「単語コメント情報を出力する」にはチェックを入れない。「ファイル名」を入力して「実行」をクリックする。

出力されるのは、「テキスト」ファイルである。これを CSV ファイルに変換するには、エディタなどで開いた「テキスト」を「全部選択」して、Excel に貼り付けし、CSV ファイルとして保存し直す。

「詠太」の「辞書作成ツール」では、1列目が「単語」で、2列目が「発音」、3列目が「品詞」、4列目が「動詞の活用」である。4列目に関しては、動詞に限って「1段活用」か「5段活用」か記入し、それ以外の品詞の場合は空欄にしておく。

この順序にしたがって、ATOK の「単語・用例の一覧出力」から作成された CSV ファイルの「列」を、入れ替えていくのである。

Excel の「列」の順序を変えるには、「列」の挿入を行った上で、該当する「列」をすべて選択して、挿入した「列」に移動した後、不要となった「列」全体を削除する。

ATOK から出力したファイルの読みはひらがなだが、「詠太」に登録するにはカタカナに変換しなければならない。「発音」の書かれた「列」をすべて選択して、エディタにコピーした上で、「ひらがな」をすべてカタカナに変換する。この機能を持つソフトウェアには、例えば「QX エディタ」がある。カタカナになったところで、Excel の「発音」の列にコピーするのである。

品詞の名称も ATOK と「詠太」とでは異なるので、「一太郎」の「置換」機能で「1つずつ確認しながら置換する」のチェックを外して、一括して「詠太」の用語に置換する。または、エディタの「変換」の機能を用いて、一括して置換するのである。例えば、「固有人姓」↓「姓」、「固有人名」↓「固有人他」↓「名前」、「固有地名」↓「地名」、「固有組織」↓「企業名」、「固有商品」↓「固有一般」↓「その他の固有名詞」といった具合に一括して置換する。

作業がすべて終わったら、「詠太」の「辞書作成ツール」で作成した CSV ファイルを読み込む。これで追加した語が「詠太」によって正確に読まれるようになる。

その後、「詠太」の「辞書作成ツール」から、単語や複合語などを追加したくなるかもしれない。例えば、「東海林」という「姓」を登録する場合、長音を含むので、通常の表記である「シヨウジ」ではなく、発音通りの「シヨージ」で登録する。「値が張る」のような慣用表現は、「動詞」の「5 段動詞」として登録する。作業が終わったら、「エクスポート」して、CSV ファイルの更新を行っておく。

ただし、「入る」のように、「はいる」と「はいれる」という複数の読みが、文脈によって決まる場合、いくら登録しても、「詠太」では対応できないようである。ルビをつければ、この種の読み違いは防げる。

なお、より正確に読ませるには、日本語のアクセントも登録する必要がある。単語別にアクセントを設定する方法について

は、「最近の読み上げソフト」の章で詳述することにする。

電子書籍の作成

ジャストシステムの「一太郎2012承」以降で、電子書籍を作る際の留意点について、僕が気がついた範囲で記すことにしよう。電子書籍として配布するファイル形式としては、podcastで配布することを考え、ePubとPDFの二種類を用意する。「一太郎2012承」以降では、いずれのファイル形式にも変換して保存できる。さらに、「一太郎2013玄」ではアマゾンの読書端末、Kindle Paperwhite用のmobi形式にも変換可能になった。「一太郎2016」では、表紙を作るための多数のテンプレートが加わった。

もし、金銭的に余裕があれば、「一太郎2016」以降を用意し

た方がいい。ブラウザにアドオンをインストールして表示する場合などで、古いバージョンで作成した ePub では、目次に不具合が生じるからである。ただし、ePub を iBooks で表示したり、PDF 版を作るだけなら無視できるのだが。

iPhone や iPod touch などの携帯端末で閲覧してもらうには、ePub がふさわしい。一方、パソコンで見るとは PDF が最適である。実は、「一太郎2016」には、ePub 形式の電子書籍を作成するため、「書籍編集」のツールパッドが用意されている。ただし、ここでは ePub と PDF ではなく、Kindle の mobi ファイルを効率的に作る方法を紹介することにする。なお、Kindle の mobi 形式については、podcast ではなく、自分のブログで公

開することが前提となる。

もし「一太郎2012承」以降をお持ちなら、作業を始める前に「JUST オンラインアップデータ」で、ソフトウェアを最新の状態にしておくこと。次に、「一太郎2012承」なら「ナビ」「よく使うテンプレート」「テンプレートを開く」から「EPUB」を選択する。「一太郎2013玄」なら「ファイル」「テンプレートを開く」から「EPUB」を選択する。「一太郎2016」なら、右端の「メニュー」をクリックし、「オプション」で「書籍編集」が表示できるようにする。いったん終了してから再起動すれば、パレットに「EPUB 編集ツールパレット」が表示されるようになる。どんなスタイルがあるか、ざっと目を通してレイアウトを考える上でのヒントにする。

ただし、ここでは PDF も同時に作成することを考え、テンプレートは使わないことにする。「ヘルプ」に epub と入力して、「EPUB 形式の電子書籍を作成するテクニク」の項目を読んでもおう。Adobe Acrobat Reader で PDF を表示する際に、「エキスパンドブック」と同様のレイアウトにするために、「文書スタイル」を以下のように設定する。

用紙 A5 単票・横方向

文字組 縦組

字数 28.0字

行数 12行

字間 1%

行間 50%

余白は上端と下端が14mm、左右が16mm、中央が25mm。

フォント MS明朝（または游明朝） 12ポイント

本文は「一太郎2012承」以降で打ち込んでおく。エディタで文書を管理している場合には、テキストを流し込んでから、必要に応じてルビなどを振っていく。ここで注意しなければならないのは、「改ページ」と「目次」である。

まず、「改ページ」について述べる。各章の終わりなど、余白を残して強制的にページを変えるには、「改ページ」のマークを打ち込んでおく必要がある。

あらかじめ「改ページ」したいページに移動しておく。「改

ページ」は「挿入」から「記号リーダースペース」、「改ページ」とたどっていく。「改ページ」する直前のページの最終行にカーソルを置いてクリックすると、「改ページ」のマークが入る。次のページが1行ずつずれるので、適宜調整するといいい。「改ページ」のマークを打ち込むことは、PDFで電子書籍を作る場合は重要ではないが、ePubでは必須である。

次に、「目次」についてだが、ePubで有効にするには、「1太郎」で目次の設定をしなければならない。単にリンクを張るだけでは、目次として機能しないということである。

具体的な方法を以下に述べる。本文をすべて打ち込んでしまったら、目次にするために1ページ（または必要なページ数）を空けておく。「ファイル」「文書スタイル」「スタイル」とた

どり、「ページヘッダ・フッタ」のタブをクリックし、「ページ番号詳細」をクリックする。ePubの場合なら、「目次用ページを使用する」で1ページ（または必要なページ数）と設定する。PDFの場合には、それ以外に「表紙用ページを使用する」の項目も設定しておく。

本文内の章のタイトルを選択したら、「ツール」「目次索引」「目次設定解除」とたどり、「目次1」が選択されているのを確認して「OK」をクリックする。各章のタイトルに関して、これを繰り返し返しておく。その際、「挿入」「ブックマーク」「カーソル位置をブックマークに追加する」とたどり、各章のタイトルに「ブックマーク」も設定しておく。

目次に設定したページに戻り、「ツール」「目次索引」「目次

作成」までたどり、「目次1」のタブに関して、「目次にする」にチェックが入り、「ページ番号位置」が「付けない」になっているのを確認した後、「OK」をクリックすると、目次のページに赤い破線に囲まれた各章のタイトルが現れる。その直前の行に「目次」と打ち込み、レイアウトを整える。

この目次の設定がないと、ePub では有効なリンクが生成されないのである。これで準備が整ったので、目次のページに移動し、目次内の各章のタイトルを選択し、「挿入」「ハイパーリンク」とたどり、「作成／変更」をクリックし、「ブックマーク」の「一覧」をクリックし、リンクを張りたい「ブックマーク」を選択する。あとは、その繰り返しで、目次の各項目と各章をすべてリンクしていけばいい。

本文にハイパーリンクを張りたい場合には、「挿入」「ハイパーリンク」「作成／変更」をクリックして、URL を記入する。別途、表紙などのファイルも、フォトレタッチツールなどで加工しておく。大きさは縦1024px、横724px くらいおく。なお、画像の著作権には注意すること。テキストのフォントは、パソコンに付属しているMS明朝か游明朝、MSゴシックに指定しておく。ePub を「リフロー」で作成する場合は、明朝体の方がきれいである。

画像は1ページに一枚に限ること。画像の説明文を含んだ画像を作るようにしておく。というのも、画像の下に説明文を文字として記入した場合、PDF では問題なのだが、ePub だと画像と説明文が別ページになったりして、非常に見栄えが悪く

なってしまうからである。説明文を画像に組み込む際には、フォントによっては JPEG に変換すると摩滅してしまうので、フォントを太めにするなど調整する。

ePub で写真集などを作るのはお勧めできない。画像の配置がアンバランスになったり、ソフトウェアによっては文中に表示されなかったりするからである。ただし、「一太郎2013玄」では、端末に合わせて形を変える「リフロー」に加え、漫画などのための「固定レイアウト」にも対応した。

画面の小さい携帯端末では、表示する文字数を微妙に調節できる「リフロー」が便利である。文字情報のままなので、辞書アプリで分からない言葉を指定すれば、簡単に調べることができる。一方、写真集や漫画などは「固定レイアウト」にしない

と、期待される効果が損なわれてしまう。ただし、画像化されているので、意味を調べたい場合は、辞書アプリを起動して、言葉をいちいち打ち込まなければならぬ。「固定レイアウト」では、画像の種類や画質、サイズなども調整できる。とはいえ、「固定レイアウト」の ePub を作るくらいなら、PDF を用いた方がいいのではないかという疑問も生じる。

作業を中断してファイルを保存するとき、「保存の前に目次と索引を更新しますか?」という表示が出たら、「いいえ」をクリックすること。「はい」をクリックすると、それまでの設定がすべて廃棄されてしまう。

全体のチェックが終わったら、一太郎ファイルを ePub 形式で保存する。「EPUB 保存」をクリックすると、「EPUB ファイ

ルのプロパティ」が現れる。「タイトル」「作成者」を記入し、言語は「日本語」を選択する。「表紙」をつける場合には、準備しておいた画像ファイルを指定する。「キーワード」は半角カンマをはさんで指定する。「説明」を短く書いた後、「発行者」「著作権」も自身の名前を記しておく。ISBN は販売するときのコードだから空欄にしておく。「作成日」「発行日」「更新日」は自動で入っているだろうから、「保存」のボタンを押せば、十秒程度で出力される。パソコンと携帯端末で表示されることを考え、先述した ePub 関連のソフトウェアで開いて、表示を確認しておくこと。

次に、「一太郎2013文」以降の kindle の mobi 形式に変換する

方法を述べる。ePub と異なる点を言えば、目次のページを作成せずに、各章のタイトルを選択し、「目次設定」するにとどめておくという点である。目次自体は Kindle 用が自動で生成される。一太郎で目次のページを作成してから mobi に変換した場合、一太郎が設定した目次と、Kindle 用の目次が重複するという不具合が生じる。

原稿のチェックを終えたら、一太郎ファイルを mobi 形式で保存する。「mobi 保存」をクリックすると、「kindle/mobi ファイルのプロパティ」が現れる。「タイトル」「作成者」を記入し、言語は「日本語」を選択する。「表紙」をつける場合には、準備しておいた画像ファイルを指定する。「種類」は「リフロー」を選択し、「キーワード」は半角カンマをはさんで指定す

る。「説明」を短く書いた後、「発行者」「著作権」も自身の名前を記しておく。ISBN は販売するときのコードだから空欄にしておく。「作成日」「発行日」「更新日」は自動で入っているだろうから、「保存」のボタンを押せば、十秒程度で出力される。

なお、今述べた方法が煩瑣^{はんさ}なら、ePubを作成した上で、Kindleプレビューツールで、Kindle用のmobiファイルに変換できる。また、すでにePubファイルを持っていて、それをmobiに変換したい場合も、Kindle Previewer を利用すればいい。Kindle用の目次は表示されないが、一太郎で作成した目次は、Kindle上でもリンクが有効である。

いずれにしても、Kindle Paperwhite に正しく表示できるか確認するため、同ツールは事前にインストールしておいた方がいい。

最後に、PDF を作ることにする。ePub を作成した時の一太郎ファイルを、PDF 用に別名で保存し直す。「ファイル」「文書スタイル」「スタイル」「ページ／ページ・フッター」とたどり、「ページ番号詳細」で、「表紙用ページを使用する」にチェックを入れ、「表紙用ページ」に「1」と設定する。「目次用ページを使用する」の欄は、ePub で設定したときのままにしておく。

PDF では「表紙用ページ」に、表紙となる画像を貼りつける。「目次」のページは、リンクが有効となっているタイトル

の真下に、ページ数を半角数字で書き加えればいい。

ページ数を記入してしまったら、目次のページ全体を選択して、「書式」「文字割付」「縦中横一括設定」とたどり、「行の幅に収める」にチェックを入れて、「対象文字数」を設定して、三桁のページ数でも縦に表示できるようにする。チェックを終えたところで、PDFの形式で保存すればいい。

なお、ePubやmobi、PDFでも言えることだが、実際にインターネットで公開する場合には、ファイル名は半角のローマ字で表記しておいた方がいい。

mobiファイルの縦書きと目次

「一太郎2013玄」がアップデートされ、Kindleのmobiファイル作成に対応した。AmazonのKindleが登場したことで、個人による電子出版も現実的になったことから、この対応に期待を抱いた人も多いことだろう。

AmazonのKindle Paperwhiteや、パソコンやAndroidのKindleで開く分には、mobiファイルでも問題ではない。ただし、作成された縦書きのファイルは、iOSで開くと横書きにされてルビも脱落してしまう。電子書籍の体をなしていないのである。縦書きのmobiファイルを、友人がiPadで開いたら横書きになったなんて、笑うに笑えない話である。

ただし、Amazon からダウンロードした電子書籍は、著作権が切れて無料配布されているものも含めて、iOS でも縦書きで表示される。拡張子が azw で、mobi とは異なっている。Amazon で azw に加工されたファイルは、iOS でも縦書きで表示される仕組みになっているのである。

本当は iOS 版の kindle アプリが、mobi ファイルの縦書きやルビに対応してくれればいいのだが、iOS 版での問題を回避する方策は、すでに Amazon から提供されている。

Kindle Previewer をダウンロードし、縦書きで作成した ePub や mobi のファイルを開く。その際に、デバイスの設定を Kindle for iOS しておく。すると、iOS でも縦書き表示が可能な、azk

ファイルに変換してくれるのである。その際の注意点に関しては後述することにする。

しかし、azk ファイルに変換できても、Amazon のクラウドへメールで転送できない。Amazon で出版するのではなく、Kindle の端末で読んでもらうためだけなら、わざわざ azk ファイルを作らずに、mobi ファイルを作成すればいいだろう。

写真集と電子書籍

写真集を電子書籍で作成したときに、いくつか気づいたことがあったので、ここで指摘しておきたいと思う。

電子書籍 ePub は、iOS の iBooks や紀伊國屋書店が提供しているアプリ Kinoppy で、ご覧になっている方が多いだろう。端末のサイズに合わせて一行の文字数が変化するので、ポートブルな端末で読むのに最適である。ただし、固定レイアウトの ePub もあり、つまり、PDF と同じではないかと思っていたが、大きな違いがあった。

PDF の場合には、画像も文字も編集中のワープロファイルがほぼ再現される。画像は圧縮されるようだが、文字は鮮明なままである。一方、固定レイアウトの ePub の場合、文字も含めてページ全体を画像化する。そのために、明朝体のフォントなどは一部が欠けてしまい、非常に読みにくいものとなる。固定レイアウトの ePub は、漫画など一部の電子書籍にしか向いていないようである。

写真集を電子書籍にする場合、PDF にするのがもつとも無難である。画像は圧縮されるので、鮮明度がやや落ちる気がするが。一方、リフローの ePub の場合、本文と画像はリンクさされているだけなので、解像度が高い鮮明な画像が見られる。ただし、写真と本文の表示は端末に左右されるため、レイアウトの乱れは避けられない。

iBooks で見る場合、写真の一部が表示されないときは、画

像にタッチすれば、リンクされた写真が全画面で現れる。ただ、レイアウトの乱れを考えれば、PDF か固定レイアウトの ePub で作成した方がいいだろう。

公開する際の注意点

実際に電子書籍ができれば、とりあえず、Secsaa のサイトにアップロードしてみよう。作った電子書籍を実際に第三者に見てもらおうのである。また、多くの電子書籍がアップロードされているサイトに登録するという方法もある。ただし、コンテンツが豊富なサイトでは、かえって自分の作品が目立たないことになり、意外にダウンロードしてもらえないものである。

有料で売り出そうなんてやめた方がいい。ポルノとかハウトゥ本なら分らないが、小説やエッセイはプロのものでなければ、金を払ってもらえないだろう。とにかく読者に目を通してもらい、評価を仰ぐのが先決である。

もしある程度、自信がある作品ができたなら、iTunes Storeのpodcast に申請してみよう。Seesaa にアップロードした電子書籍を、アップル社に審査してもらおうのである。Podcast Connectのアカウントを作り、そこからアップル社にRSS フィードを送信するのである。注意点はアップル社のpodcast のページで確認する。過激な性や暴力の描写があると、却下されるかもしれない。許可された場合には、数日以内にメールで連絡が来る。

iTunes Store のpodcast にスペースがもらえたら、月に一回以上新作をアップロードしていく。正式に登録されれば、日本だけではなく、欧米や中国、韓国サイトからも、podcast のリンクが張られる。iTunes Storeでの掲載は期間限定だから、コンテンツがなくならないように注意する。一定のダウンロード

数を確保するように、Twitterなどで宣伝していこう。

忘れてはならないのは、Seesaa で電子書籍を公開するとき、同一のブログに二つ以上のコンテンツをリンクしても、アップル社のコンピュータは一つしか、iTunes にリンクを作成してくれないということである。

iTunes Store のpodcast に登録された場合、ePubやPDFはどのようにダウンロードされるのだろうか。ファイル自体はSeesaa のサーバーにあり、iTunes はリンクをたどってファイルをユーザーのパソコンに移動するのである。iTunes は本来、音楽を管理するソフトウェアであり、iTunes 上でクリックした作品は、マイミュージックの幾層も下のフォルダにダウンロード

されるのである。

要するに、 iTunes からダウンロードする場合は、マイミュージック↓ iTunes ↓ iTunes Music ↓ podcasts ↓当該のフォルダの下に、ファイルが入るというわけである。なお、 ePub の場合、 Internet Explorer でダウンロードすると拡張子が zip となるので、それを epub に変更してもらおう。他のブラウザではその必要がない。

電子書籍が「マイミュージック」にダウンロードされるなんて事情は、多くの人には知られていない。したがって、その辺の説明はアップロードするページで、必ずしておいた方がいいだろう。

iPhone などでダウンロードする場合には、 podcast のインストールが促される。 iOS のアプリ podcast の場合には、音楽再生用のボタンが表示され、そのままではファイルはダウンロードできない。「エピソードの Web サイト」に移動すればダウンロードできる旨を、 podcast の紹介の欄に記しておく必要がある。購読している podcast の形で、ファイルは管理されることになる。

今述べた方法以外にも、自作の小説などを、 ePub や PDF のファイルでアップロードできるサイトがある。僕が最初に試みたのは、 Puboo である。ジャストシステムの「一太郎」と連携していたので、作品を投稿された方も多いただろう。

無料版とプロ版があるが、サイト内で作成するのではなく、

すでに作成された ePub や PDF をアップロードするには、月額 540 円のプロ版に登録する必要がある。プロ版では審査にパスすれば、「Kobo イーブックストア」と「Kindle ストア」でも販売することが可能となる。

ただし、ノウハウ本や写真集、ポルノ以外は、プロ作家でなければ売れないだろう。そもそも、読まなければ始まらないのだから、読者も持たないのに有料で出そうという方が間違っている。

ブログ Seesaa が運営する forkN がある。Puboo とスタイルが似ているが、こちらは登録は完全に無料で、有料で販売した作品が売れた場合のみ、手数料が生じる。ePub と PDF が配布できるが、縦書きやルビ対応の電子書籍を出すには、PDF を選

択することになる。forkN のエディタ、ビューアは縦書きに対応していないので、ユーザー自身で縦書きの ePub を作成し、読者はダウンロードしてから、縦書き対応のソフトウェアで開いて見ることになる。

今紹介した以外にも、Amazon の Kindle ダイレクト・パブリッシング (KDP) から「直接販売する方法」もあるが、無料で電子書籍を出品して、ある程度手応えを感じてからの方が無難だろう。

読者を獲得するために

ただ、電子書籍を書いて発表しても、知人以外にも読んでもらえなければつまらない。そのためには、日頃からブログを書き続けて、潜在的な読者を増やしていかなければいけない。また、ブログで書き続けたものを、電子書籍にまとめ直せば、改めて読み直してもらええる可能性がある。

僕は以前から、podcastをやっているのだが、それを維持するためにも、読者を少しずつでも増やさなければと思っている。ただ、内容のあるブログを書いているれば、読者が自然に増えるわけでもない。宣伝もしなければ、無数にあるブログの中から、ページを見つけてもらえないからである。

Facebook はコミュニケーションの道具としては優れているが、自身のブログばかり宣伝していると、自分勝手だという印象を持ちられてしまう。そこで、ブログの宣伝は、「ブログ村」のサイトと連携する以外は、もっぱら、Twitterで行っている。Facebook よりもよりも、幅広い人に目を通してもらえるからである。

ブログの数が増えてくると、過去にどんな記事があったか、新しい読者には伝わりにくい。僕がやっている Sesa の場合、検索の窓があつて、「記事」のボタンを選択し、キーワードを押して検索すれば、該当する単語を含む記事が出てくる仕組みになっている。また、カテゴリー別や投稿日から記事にたどり

着くこともできる。よく出来ているとつくづく感心してしまう。以前、僕はそれを個人のホームページで実現しようとしたが、あまりのハードルの高さに断念した。ブログのサービスを利用すれば、ネット配信の技術的問題にわずらわされることなく、自己表現に専念できる。いい時代になったものである。

一定以上の記事がたまったら、かつての記事でも気に入っているものがあれば、Twitter でツイートするといい。新たな読者を毎日一人でも得られるように努力していききたいものである。

電子書籍を読む方法

オープン・ソースの ePub は、今や電子書籍の標準規格である。かつてはシャープの XPDF が幅を利かせていたが、使用料が高かったことで、Amazon の kindle に押されていった。シャープの端末ザウルスも、いつしか消滅してしまった。

kindle のファイル形式のうち、mobi は ePub の拡張形式と見られ、「二太郎」で編集すれば、比較的容易に作成できる。ただし、mobi は iOS 版の kindle で表示しようとすると、縦書きが横書きになり、ルビも有効ではないので注意を有する。

専用の読書端末には、ソニー・リーダーや楽天の Kobo Touch などがあるが、Kindle Paperwhite などで表示するには、事前に

ePub を Kindle Previewer で mobi などに変換するか、Kindle の端末に与えられたメールアドレスに ePub を送信するだけで、閲覧可能な形に変換してくれる。

パソコンの場合、かつて Adobe Digital Editions が日本語もきれいに表示していたが、もともと英語版なので、現在のバージョンでは日本語に対応していない。

calibre は電子書籍の形式を変換できる優れたものだが、縦書きの日本語には未対応である。英語や日本語の横書きしか読まないなら、問題はないだろうが。

Google の chrome を使用しているなら、アドオンの Radium を組み込めば、ブラウザから ePub を表示できる。もちろん、縦書きやルビにも対応している。詳しい使い方については、「電

子書籍 ePub3 の脚注」の章で触れることにする。

firefox にもアドオンの EPUBReader があり、縦書きやルビなどにもようやく対応した。

どうやら、紀伊國屋書店の Kinopyy が、パソコン上で最も美しく ePub のファイルを表示するようである。紙の本同様のレイアウトにこだわった成果だろう。

さて、iOS の場合だが、ePub の規格によく対応しているのは、アップルの iBooks である。インデントはもちろん、注釈の表示などもする。オーディオやビデオを埋め込んだ ePub にも対応している。その代わり、アプリが重い。

紀伊國屋書店の Kinopyy には iOS 版もある。こちらは電子化

された本を表示するのに特化されているので、表示が美しく動きも軽快である。

PDF 形式の電子書籍を開く際には、「ページ表示」を「単一ページ表示」にすれば、マウスでスクロールするだけで、ページを移動することができる。わざわざ印刷する必要はないのである。ただし、表示される文字がかすれて、とても読みにくいことがある。

その場合、Adobe Acrobat Reader の「環境設定」から「ページ表示」に移動し、「レンダリング」のすべてのチェックを入れて、テキストのスムージングを「液晶画面用」にすれば、文字のかすれが補正される。

Firefox にはブラウザ上で PDF を開く機能があるが、フォントがかすれて読みにくい場合は、いったんパソコンに保存してから、Adobe Acrobat Reader で開き直せばいい。

Kindle for PC

Amazon で販売、および無料配布されている電子書籍は、Amazon が販売している Kindle だけでなく、iOS や Android でも読むことができる。Amazon からダウンロードした縦書きのファイルは、当然のことながら問題がない。

ただし、自作の ePub を無料の Kindle プレビューツールで mobi に変換した場合、iOS に限ってだが、縦書きの電子書籍が横書きに表示されるという問題があった。その場合でも、デバイスの設定を Kindle for iOS にしておく、iOS でも縦書き表示が可能な、azk ファイルに変換してくれるはずなのだが、変換に失敗することが多い。

パソコンでも、現在では mobi が読めるようになった。Kindle for PC の日本語版が公開され、無料でダウンロードすることができる。目次やしおり、メモ、検索などの基本的機能と、白・セピア・黒からの背景の選択、フォントの大きさの調節、他の Kindle デバイスとの同期など、一通りのことはできる。辞書の『大辞泉』が利用できる、選択した語の意味が自動で表示される。

mobi ファイルがパソコンで縦書き表示されるようになり、個人で Kindle 用のファイルを作成するユーザーには、フラストレーションからの解放となった。見た目もよく、しかもカラー表示される。ルビや縦横の文字なども問題がない。タブレット端末での表示を考えると、指でめくれるようにしたいところ

だが、現状では左右の指定された位置に触れるか、キーボードでの操作となる。

「青空文庫」形式のテキストファイルを、Kindle for PCで読む場合、まずJAVAをインストールし、Kindle Genを適当な場所に展開しておく。さらにAozoraEpub3を解凍し、分かりやすい場所に展開する。そのフォルダの中にAozoraEpub3.jarというファイルがあるのを確認したら、KindleGenのフォルダからKindleGenというアプリケーションフォルダをコピーし、AozoraEpub3のフォルダにペーストする。これで前段階での準備が整う。

AozoraEpub3.jar をクリックして起動したら、「青空文庫」からダウンロードしたファイルを、下部の枠内に放り込む。その際、「使用したい端末」で、Kindle PWを選択しておく。変換前確認として、タイトルのふりがななどを記入して変換すると、Kindle用のmobiファイルが生成される。これをドキュメントフォルダ内の下部フォルダMy Kindle Content内にコピーする。Kindle for PCを起動したら、ライブラリをクリックし、「青空文庫」のファイルを選択すればいい。

なお、「青空文庫」のファイルの多くは、Amazonからすぐに読める形で、無料でダウンロードできるので、「ここ」で述べた作業は、Amazonで配布されていない場合に行えばいい。

文学作品の入手先としては、他に日本ペンクラブによる「電子文藝館」がある。そこで公開されているPDFを、mobiに変

更する方法を以下に述べる。

まず、PDF から本文の部分をコピーして、テキストファイルを作成する。ここで、問題となるのはルビの扱いである。ルビは「経(つね)子」のように()が用いられているので、ワープロやエディタの一括変換で、ルビの形式を、青空文庫形式の《 》に改め、「経《つね》子」のように変更する。ただし、()はルビ以外に、挿入句に用いられている場合もあるので、その箇所は手動で訂正することになる。あとは、先述した方法で、kindle用の mobi ファイルに変換すればいい。

電子書籍 ePub3 の脚注

個人で電子書籍を作る場合、最も容易なのは、ジャストシステムのワープロソフト「一太郎2012承」以降を用いる方法である。

「一太郎」で脚注を設定する場合、そのままの形で反映されるのは、PDF 形式の電子書籍を作成した場合である。脚注は本文と同じページに表示される。

では、ePub3 の電子書籍に変換した場合は、どのように表示されるのだろうか。実は携帯端末のアプリ、パソコンのソフトウェアによって、大きく異なるのである。

iOS がインストールされている携帯端末で、脚注が快適に表

示されるのは、アップルの純正アプリ:iBooks である。脚注の印に触れると、脚注のページが飛び出し、終了のボタンを押すと、直前に読んでいた文に戻る。内蔵辞書で語句を調べるときと同じ要領である。

紀伊國屋書店のアプリ Kinoppy の場合、脚注の印に触れると、巻末の注に飛ぶので、直前に読んでいた部分に戻るには、「戻る」の印に触れればいい。

次に、パソコンの場合について述べよう。Google の chrome で ePub3 を開くには、Radium というアドオンを組み込む必要があるのは、先述した通りである。

使い方の概要を述べておこう。事前に ePub をダウンロードしておき、chrome を起動したら、「アプリ」の文字をクリックする。さらに Radium をクリックすると、電子書籍を表示するページが立ち上がる。上のバーの＋印をクリックし、From Local File から、パソコンに保存されている ePub を選択すると、Google の chrome で ePub を読むことができる。脚注の印にマウスを合わせたら、右クリックして「新しいタブで開く」ようにする。本文のタブと注のタブを、移動すればいいわけである。

Firefox にアドオンの EPUBReader を組み込んだ場合は、注釈の印に触れると、巻末の注に飛ぶので、読み終わったら注のリンクをクリックすれば、直前に読んでいた部分に戻る。

パソコン用の Kinoppy を使用する場合も、Firefox と同様の操

作方法をとる。

最近の読み上げソフト

僕は **podcast** をやっているの、試みに自作を音読して録音してみた。部分的には満足しても、全文を淀みなく読むのには苦勞する。やはり、俳優が読むようにはいかない。

ジャストシステムの「一太郎2013」以降のプレミアム版には、読み上げ機能「詠太」というソフトが付属している。「どこでも詠太」を立ち上げて、読ませたい部分を選択してコピーすれば、ニュースも読み上げさせることができる。人の声にかなり近い。漢字の読み間違いは多少あるし、アクセントが時々おかしいから、外国人に朗読してもらっている感じである。ただし、辞書登録機能がついており、これを利用すれば、漢字の読み間

違いは、限りなくゼロに近づけさせられる。IMEに入っている語を、まとめて登録することも可能で、その具体的な方法については、「推敲について」の章ですでに述べた。

ここでは、「詠太」の辞書登録機能のうち、「アクセントを付ける位置」に符号、を振る機能について述べよう。ただし、日本語は強弱アクセントではなく、高低アクセントだから、「アクセントを付ける位置」と言われても、一般の人によく分からないだろう。

日本語の東京方言では、最初の音（正確には「拍」と次の音（拍）に音の高低がある。ただし、下げるのだけははっきり発音し、上げる方は無理に上げると不自然になる。『新明解国語辞典』には、各単語の「アクセント核」（高い音から低い音

に移る直前の音）が書いてある。「箸」は①なので、「は」が高く、「し」が低い。「橋」は②なので、「は」が低く「し」は高く、次に来る助詞でようやく下がる。「橋が」の場合、「し」と「が」の間に高低差が現れるのである。ちなみに、「端」の場合は、「端が」の「が」も高いままなので、「アクセント核」がゼロということになる。

そこから考えると、「詠太」の「アクセントを付ける位置」に符号を振るというのは、「アクセント核」の直後に符号の、を入れる、という意味であることが分かる。

「詠太」の利点を付け加えれば、一太郎文書の場合は、ルビも正確に読んでもくれるから、原稿の校正で誤植を発見するのにも役立つ。優秀なソフトではあるが、録音機能はついていない。

他のソフトを併用すれば不可能ではないが。

また、「詠太」による読み上げは、あくまでも個人利用に限られるという条件なので、録音したものを公開することはできない。この種の読み上げ機能は、一部のフリーソフトを除けば、あくまでも個人利用に使用範囲を制限しているのである。

その他の読み上げソフトを紹介しよう。ワープロソフトのワードには、「校閲」のタブに「音声読み上げ」機能がついている。ただ、ルビがついている漢字は読み飛ばしてしまう。PDFを開くAdobe Acrobat Readerにも、日本語の読み上げ機能がついている。ただ、ルビがあると、ルビを一つの行と解釈して、本来読み上げるべき一つ前の行で、ルビだけ読んでしまう。

僕は以前、JukeDox2 Free という無料のソフトを見つけた。

テキストファイル以外でも、ワードや一太郎、PDF、htmlやepubなど数多くのファイルを読み込むことができる。録音機能はフリー版にはついていないが、読み上げ機能はレベルが高い。

残念なのは、ルビをルビとして認識せずに、漢字とルビの部分を二重に読んでしまう点である。これらの弱点をカバーしているのが有料版で、試しに買うほど安くはないが、機能面では「詠太」より充実している。ただし、こちらのソフトも、個人ユーザー向けは、あくまで個人として使用するのが前提である。音声ファイルの公開はできない。

「東京ブックフェア」に出かけて、電子出版関連の展示を中心

に見て回ったときのことである。スマートフォンで気軽に読めるようになり、電子書籍の ePub も、以前よりは認知されるようになった。文字情報や画像を組み込むだけなら、ジャストシステムの「一太郎」を用いて、個人で作ることも可能である。ただし、音声や動画の組み込みとなると、ハードルが急に高くなる。文字情報や、画像、音声や動画を持ち込んで、ePub を作成する有料サービスが目を引いた。

読み上げソフトの声は、機械的な合成音から、かなり人間の声に近いものになった。自然な読み上げにも驚いたが、目を引いたのは、個人の声のサンプルから、「ユーザーデザイン音声合成技術」を用いて、ePub を読み上げるという技術である。ただし、サービスを依頼するには、それなりの費用がかかる。

個人の声で聞きたいなら、相手に読んでもらえばいいわけだし、機械に読んでもらいたいなら、「詠太」や JukeDox2 を使う方が実用的だろう。

電子書籍を再編集する

実際に電子書籍を配信した後、誤植に気づくことがある。部分的に書き直す程度だったら、「一太郎」で編集して出力し直せばいいのだが、一章を付け加えらるとなると、エラーは避けられないという結論に至った。

ブログが一般化する以前、僕はホームページを運営していたことがあった。ワードや一太郎で文章を書き、画像を張ってから、HTMLに変換する方法もあるのだが、あとで編集し直す時、不必要なタグが重なり合って、レイアウトがすっかり崩れてしまうのである。それに懲りてから、ホームページの原型となるHTMLの中に、自分の文章を流し込む方法をとるようになった。

なった。

電子書籍の話に戻すと、ePubに一章を挿入するような場合、全文をコピーして、ユニコードに対応したエディタ、Windowsのメモ帳などにいったん貼り付ける。この際、ワープロを使うと、エラーの原因となる情報までコピーしてしまうので、エディタにユニコードテキストで貼り付けるのがこつである。

それをさらにコピーして、新規作成した一太郎ファイルに貼り付けるのである。ルビなどは（ ）の中にくくられているので、面倒ではあるが改めて設定する。電子書籍の編集作業を一からやり直すのである。手作業となるのだが、楽をしようと思つて、エラーの原因が分からず苦闘するよりは、よほど短時間で問題を解決できるのである。

PDF ファイルだけを作成するのであれば、このような作業は経ることなく、元の「一太郎」ファイルに一章を挿入し、目次を設定し直して PDF で出力しても問題は生じない。

電子書籍を一太郎で作ると、タグの編集をせずに楽だが、いざエラーが生じると対処できなくなる。ePub は所詮、html ファイルをリンクでつないで、圧縮しているだけだから、軽度のエラーなら、html を編集すればいいという話になる。

ただし、ePub に再圧縮するには、特殊なソフトを使用する必要はある。ePubPack をダウンロードし、適当な場所に保存しておく。setup.exe ファイルをクリックすると、立ち上がった準備が完了する。

まず、当該の ePub ファイルの拡張子を zip に変更する。OEBPS フォルダに、html ファイルは格納されている。エラーが生じている html ファイルをメモ帳やエディタで開いて修正し、上書き保存する。ちなみに、nav.xhtml というのは目次のファイルである。

ePubPack を起動して、ePub minetype file の select をクリックし、解凍した ePub ファイルの minetype ファイルを選択する。次に save as をクリックし、ファイル名をつけて任意の場所に保存するように設定し、Creat ePub File を押せば、ePub 形式にふたたび圧縮される。その際に、元の ePub ファイルとは異なる場所に出力するようにしよう。

出来上がったファイルを、紀伊國屋書店 Kinopypy for Windows

などで表示してみる。目次などに異常が生じていなければ、編集は成功したことになる。

それでも、意味不明のエラーが生じる場合、ePub を編集してきた一太郎ファイルを、unicode テキストで保存し、一から編集し直すしかない。面倒だけれども、意味不明のエラーを排除する確実な方法である。その際にルビの設定も消えてしまうから、新たな一太郎ファイルを作るときに、手作業で設定し直すことになる。

ただし、一太郎2018以降を使用しているなら、アウトプットナビの「小説投稿」から、「親文字 ≪ふりがな≫ + ≪≪傍点≫≫、または「親文字 ≪ふりがな≫ ± 傍点 ≪・≫ で出力する。テキストで出力することで、エラーは排除され、かつ、ルビの情報は

保存される。なお、異体字を使っている場合は、その部分が変わってしまうので、その部分だけは手作業で訂正していくしかない。

ルビ情報つきのテキストファイルを、一太郎で自動的に読み込むには、「オプション」の「ファイル操作」で、「テキストファイル読込時にふりがなを自動に設定する」を「する」にしておく。これによって、テキストファイルの ≪ふりがな≫ が自動でルビに変換されるのである。

一太郎2016について

ジャストシステムから「一太郎2016」が発売された。Windows 10に正式に対応したという。今回、僕はプレミアム版を購入した。『精選版 日本国語大辞典』が付属しているからである。これは日本最大の国語辞典『日本国語大辞典』全十三巻十別巻から、重要な語三十万語を収録して、全三巻に再編集したもので、一冊でも百科事典ほどの重さがあり、全三巻で五万円もするものを電子辞書の形で、ジャストシステムのIMEであるATOKに組み込んだものである。

また、ATOK 付属の辞書は、「一太郎」以外のソフトウェアでも使用できるようになった。調べたい言葉を選択して、CE

キーを二回押すだけで、意味を説明するウインドウが表示される。自然な日本語の発音で定評のある読み上げソフト「詠太」は、今回は英語にも対応したので、クリップボードにコピーしたニュースをネイティブの発音で読んでもらえる。

もう一つ関心を持ったのは、電子書籍作成機能がより充実し、書籍の表紙のテンプレートもたくさん付いたことである。グラフィックソフトを使わずに、手軽にプロ仕様の表紙が作成できるといふ触れ込みである。電子書籍自体の作成も簡便化され、本書で述べてきた方法をとらなくても、「EPUB 書籍編集ツールパット」を用いれば、直観的に作れるようになった。

まず、「一太郎2016」の右端の「メニュー」をクリックし、「オプション」で「書籍編集」が表示できるようにする。「一

太郎2016」を終了し再起動すれば、パレットに「EPUB 編集ツールパレット」が表示されるようになる。「EPUB 書籍編集ツールパレット」から「EPUB テンプレート」を開き、「中扉」に題名を書き、本文に原稿を流し込み、「奥付」に必要事項を記したら、「文書スタイル」で好みのスタイルを選択し、「表紙ギヤラリー」を開いて、適当なテンプレートを選んで、タイトルと作者名を記す。いったん「太郎」ファイルとして保存した後、ePub として出力する際に、シートの中から先ほど加工した「表紙」を選択し、必要事項を記して ePub 形式で保存すればいい。

その際、注意すべきことは、本文が表示された状態で保存することである。表紙が表示されたままで保存すると、表紙だけで本文が空のファイルが作成されてしまう。Kindle や PDF も、この方法をとればいい。

もちろん、長い作品の場合には、改ページの記号を打ち込んだり、「目次」を設定したり、リンクを張ったりする作業は必要となるが、短編だったら瞬く間に立派な電子書籍が完成する。ePub を作成した場合、パソコン用の Kinoppy で表示すると、ほとんどプロ仕様の表示となる。

ただし、PDF の場合は字が小さいと画面では見づらい。印刷する場合と、電子書籍として作成する場合とで、設定を調節する必要がある。

では、「電子書籍の作成」の章で述べた方法を取る場合でも、

「一太郎2016」に付属した表紙だけを使うことを考えた。その方法を以下に述べることにする。

「一太郎2016」の「EPUB 編集ツールパレット」を表示したら、「表紙」から「表紙ギャラリー」をクリックし、適当な「表紙シート」を選択する。「表紙シート」には「小説」「ビジネス書」「広報誌」のジャンルがあるので、いずれかの中から好みの「表紙シート」を選択すればいい。「タイトル」と「著者名」の位置に自身の作品の「タイトル」と著者の名前を上書きする。それが済んだら「ファイル」→「他形式で保存／開く」から「画像に変換して保存」をクリックして保存する。これで表紙にする画像が作成される。

その上で、「電子書籍の作成」の章で述べた方法でレイアウトを済ましたら、本文の入った「一太郎ファイル」をePubに変換する段階で、作成した画像を表紙として指定すればいい。

また、PDF形式の電子書籍の場合は、作成した「一太郎」ファイルで、「ファイル」「文書スタイル」「スタイル」とたどり、「ページヘッダ・フッタ」のタブをクリックし、「ページ番号詳細」をクリックして、「表紙用ページを使用する」の項目を設定しておく。それから、事前に「画像に変換して保存」した表紙の画像を、「表紙用ページ」に貼り付けければいい。

電子書籍に音声を組み込む

一太郎で ePub を作成する場合、リフロー型では動画が組み込めるが、固定レイアウト型では組み込めない。一方、音声ファイルに関してはいずれの場合も組み込めないという。

ただし、一太郎では組み込めないと言っても、ePub の拡張機能には含まれているわけだから、ファイルの一部を手動で書き換えれば可能なはずである。そこで、試行錯誤した結果、次のような方法を取れば、一太郎で作った ePub に音声ファイルを組み込めることが分かった。

ePub ファイルは実体が、圧縮ファイルの zip である。音声抜きで作成した ePub ファイルの拡張子を zip に書き換える。そ

れを解凍するのである。解凍した段階で、フォルダの下に「META-INF」と「OEBPS」のフォルダ、mimetype のファイルが直接生成されているか確認する。解凍する際に一番外側のフォルダが入れ子状に作成されていたら、入れ子状態を解消しておく。

次に「OEBPS」のフォルダを開き、content.opf のファイルをメモ帳で開く。

<manifest>の宣言の下に、
<item media-type="audio/mpeg" href="ファイル名.mp3" id="_
ファイル名.mp3"/>
を加える。

挿入する音声は複数なら、その分の記述が必要である。音声ファイルは、同じ「OEBPS」のフォルダに挿入する。音声ファイルを組み込みたい箇所が含まれる xhtml ファイルを、メモ帳で開く。挿入したい箇所に以下の記述を加える。

```
<audio src="ファイル名.mp3" controls="controls">
<p>This viewer does not seem to support audio output.</p>
</audio>
```

書き加えたら上書き保存してメモ帳を閉じる。ブラウザで当該の xhtml を開いてみる。うまく記述されているなら、音声再生用のボタンなどが表示されるはずである。記述に誤りがある場合、Firefoxなどで開くと、どこに記述の誤りがあるか指摘してくれる。

あとは、これを epub に加工するわけだが、普通の圧縮ソフトを使用してはいけない。原理的には可能なように見えても、エラーが出てしまうからである。epub に圧縮するためには、ePubPack という無料のソフトをダウンロードしておく。インストールしたら起動し、「ePub mimetype file」に、作業中の mimetype のファイルを指定する。「ePub output file」に出力するファイル名を記入し、「Create ePub File」のボタンを押せばいい。その際に、元の ePub ファイルと別名にしておくこと。出来上がったら、音声出力が可能なソフトで開いてみよう。

これに対応しているのは、アップルの iBooks と、紀伊國屋書店の Kinoppy ぐらいのようであるが。

では、pdf の電子書籍を作る場合はどうかというと、一太郎では ePub の場合と状況はほとんど同じである。一太郎で音声ファイルを組み込んでも、音声再生可能な pdf に加工されないものである。

そのためには、一太郎のプレミアム版に付属してくる「JUST PDF[編集-]」が必要となる。一太郎で編集して pdf 形式で保存したら、それを「JUST PDF[編集-]」で開く。音声を挿入したいページに移動して、「注釈」のタブを開く。「音声ファイル」のボタンを押し、挿入したい箇所をクリックすると、「音声フ

ァイル添付」と出るから、「音声ファイルを使用する」の方にチェックを入れ、「参照」で音声ファイルを指定する。挿入できるのは wav ファイルのみである。アイコンの色など細かな指定もできる。保存したら、Adobe Acrobat Reader で開いて、実際に音が出るか確認してみよう。

Adobe Acrobat など高価なソフトを使用しなくても、一太郎のプレミアム版を購入するだけで、pdf の作成や編集ができるわけだから、購入しておいて損はないだろう。

ePub にオーディオを組み込む方法を紹介したわけだが、ちょっととした疑問に突き当たった。アプリやブラウザによって、音声の再生の仕方が全く異なるという点である。ePub は html

のファイルを zip 形式で圧縮し、拡張子を epub に変更しただけであり、きわめて汎用性が高いのに、である。

実は、ePub3は音声を組み込む仕様にはなっておらず、あくまでも拡張機能だという点である。そのために、音声を再生する方法がまちまちになっているのである。私が紹介したように組み込めば、firefox にプラグインの EPUBReader を組み込んだ場合や、紀伊國屋書店の Kinopy では Windows 版や iOS 版においても、当該のページに埋め込まれた形でプレーヤーが表示され、コントロールできるのである。

ところが、iOS の iBooks では同じファイルなのに、プレーヤーが画面の中に現れないのである。何かが間違っているのか、不完全なのかと考えた。ネット上のオーディオ入りの ePub で

は、プレーヤーが表示されたため、ますます分からなくなった。

先ほど、ようやくその謎が解けた。iOS 10で、コントロールセンターが刷新されたことが関係していたのである。オーディオが埋め込まれた ePub では、埋め込み位置に関係なく、画面下からコントロールセンターを引き出し、左にずらすと、iBooks用のプレーヤーが現れるのである。

html5に準拠した audio のタグを用いる方法では、iBooks で表示した ePub 内にプレーヤーが現れず、音声がコントロールセンターのプレーヤーに、一時ファイルとして渡されてしまうようだ。その場合、コントロールセンターへの受け渡しがいまいちくいかず、直前に聴いていた音楽が表示されてしまうことが多

い。

ただ、audio のタグを用いた html5 の方法は、シンプルで扱いやすいので、自分としては「こだわりたい」と思っている。Kinoppy や、firefox にプラグインの EPUBReader を組み込んだ場合に、プレーヤーが表示されるのは、html5 の規格に則っているからである。

問題の回避策としては、audio タグを用いて、ePub 内に mp3 を組み込む一方で、プレーヤーが ePub 内に現れない場合のことを考え、サーバーの mp3 ファイルへのリンクを、ePub に張っておくのである。こうすれば、環境に関係なく、オンラインで音声再生できるからである。

ePub の場合は、mp3 を内部に組み込むことができるわけだが、

pdf の場合には「JUST PDF【編集】」が wav しか組み込めない。pdf ファイルが巨大化してしまうので、インターネットで配布する場合には好ましくない。また、「JUST PDF【編集】」は、一太郎のプレミアム版などでなければ付属してこない。だから、わざわざ音声を組み込むのではなく、サーバーの mp3 にリンクを張り、オンラインで再生するようにしておけばいいのである。

iOS 版の Kindle について

電子書籍の ePub は汎用性があるが、Amazon の Kindle では、そのままの形では読み込めない。読み込むためには、Kindle Previewer で mobi 形式に変換するか、Kindle の端末に与えられたメールアドレスに送信することで、自動で変換してもらうのである。

では、Amazon 用に作られた mobi ファイルを、iPad や iPhone などの iOS 版の Kindle で読み込ませるとどうなるか。縦書きの電子書籍なのに、横書きになってしまい、ルビがきちんと表示されないなど、様々な問題が生じるのである。

iOS 版の Kindle の場合、amazon で販売されている電子書籍

(azw や azw3) は、当然のことながら正常に表示される。自作のファイルを縦書きに表示するには、先述の Kindle Previewer で、mobi から azk に変換しなければならないのだが、一太郎で作成した mobi の場合、大抵変換に失敗する。原因が分からずに悩んでいたのだが、一太郎で mobi に変換する際の設定に問題があった。

一太郎で電子書籍の元ファイルが完成したら、ePub ではなく直接 mobi ファイルで出力すること。その際に「リフロー」のタブで「フロント名を CSS 出力する」という項目が、デフォルトではチェックが入っている。このチェックを外してから、mobi ファイルとして保存しなければならない。

こうして作られた mobi は、Kindle Previewer で azk に変換で

きる。出来上がった azk は、Kindle Paperwhite などの専用端末では表示できない。あくまでも、iOS 版の Kindle で表示するためのファイルであり、iTunes で iPad や iPhone に転送することになる。

長年の謎が解けたわけだが、一般のユーザーに対しては、iOS の場合には ePub、Kindle Paperwhite の場合には mobi で提供すればいいだけの話である。

一太郎で mobi ファイルを作る際の注意点

電子書籍の ePub には汎用性があるが、Amazon の Kindle ではそのままでは読み込めない。Kindle Previewer で mobi 形式に変換してもいいのだが、ePub 用の目次と Kindle 用の目次が二重に出来てしまう。それを防ぐには、一太郎で直接 mobi 形式に保存した方がいい。

その際に、「リフロー」のタブで「フォント名を CSS 出力する」という項目を外してから、mobi ファイルとして保存すること。外さずに作った mobi ファイルは、Kindle Previewer を使っても、iOS 版の Kindle で読み込むための azk 形式に変換できないからである。

そもそも、mobiファイルは簡易的な電子書籍の形式なので、iOS版のKindleでは縦書きやふりがなの表示ができない。縦書きやふりがな表示をするには、電子出版する際に Amazon で azw や azw3 に変換してもらおうか、Kindle Previewer で azk に変換する必要がある。そのためにも、一太郎から直接 mobi ファイルを作る際に、「フォント名を CSS 出力する」という項目を外すことが重要となるのである。

ちなみに、楽天の kobo で ePub を読むためには、拡張子を epub から、~kepub.epub に変更する必要がある。一太郎で ePub として保存する際に、「kobo に最適化する」にチェックを入れると、自動で拡張子に kepub が追加される。

縦書きの三点リーダーが横向きに？

縦書きで文章を書く人間にとって、三点リーダーが横向きに表示されてしまっただけは具合が悪い。Windows10で問題になっているバグで、随分長い間放置されている。これは個々のソフトウェアの問題ではなく、OSの問題なので、マイクロソフトが対処してくれないければ、根本的な解決には至らない。

自分の場合は OX エディタで文章を書き、一太郎で編集して ePub や pdf の形式の電子書籍を作ってきたが、いつまで経ってもバグの対応をしてくれないので途方に暮れていた。やむなく、三点リーダーは極力使用しないことにしていた。

この問題はフォントが関わっており、MS明朝やMSゴシックな

ど、一般によく用いられるフォントを使用しているときに発生する。それを回避するには、三点リーダーがきちんと表示される縦書きフォントを、使用すればいいことに気がついた。

エディタを使用している場合は、対応は簡単である。書式設定でそれらの記号がきちんと表示される縦書きフォントを使用すればいいのである。自分のコンピューターに含まれるフォントでは、@HG教科書体などで正しい表示がされることが分かった。

一太郎の場合は、ちよつと複雑である。一太郎文書を作成するだけだったら、通常のMS明朝で文書を作成し、横向きになった部分だけ、三点リーダーが縦に表示されるフォントを適用すればいい。

一太郎で電子書籍を作る場合にはどうすればいいか。その方法はpdfでは問題なかったものの、ePubでは三点リーダーが縦書き表示されても、表示位置が左にずれている。それを回避するには、一太郎文書で横向きになった三点リーダーだけを、IPanji明朝のフォントに指定してePubで出力すればいい。三点リーダーはきちんと縦書きで中央に表示される。ちなみに、IPanji明朝は戸籍の人名表記を文字化けなく表示できるフォントである。

実験的に作成したePubとpdfは、iOSでも正常に表示された。これで万全かどうかは断言できないが、作成された電子書籍が、他のOSでもきちんと表示されたことから、この問題で悩んでおられる方は、試してみる価値があると思う。

Windows 10では、縦書きでダッシュや三点リーダーが横向きに表示される問題があった。これはフォントのトラブルであり、一太郎で表示する場合、その部分だけ [Pam] 明朝フォントに切り替えれば、縦書きに表示されるのである。これは電子書籍の ePub や pdf にも反映される。

Windows 11では、縦書きフォントのダッシュや三点リーダーが横向きに表示される問題は回避されている。ただ、ダッシュは2文字分の長さがあるのに、縦書きでダッシュの文字を並べると、文字間に隙間が空いてしまうのである。

一太郎で表示する場合、「書式」「文字割付」「文字結合」という方法もあるようだが、pdf にすると反映されない。僕はプ

リントーは買わずに、pdf に変換した文書をコンビニのコピー機で印刷しているのだ。

ダッシュの代わりに罫線を用いる方法があるが、読み上げソフトの「詠太」では、罫線の下にある文字は、読み上げの時に飛ばされてしまう。

最もいい方法は、ダッシュを一字打ち込んで、「書式」「文字サイズ」で「横2倍」にするのである。すると、縦書きされたダッシュが縦に2倍になるのである。横向きのフォントを縦書きで表示しているからだろう。pdf に変換しても、縦書きのダッシュは隙間が空かず、つながって表示されている。

電子書籍で漢文を表示する

電子書籍を編集する過程で、漢文を入力することになった。白文のままにしようかと思ったが、返り点ぐらいつけないと読めないんじゃないかと思った。

そこで、電子書籍を作成する際に用いる一太郎で、入力してみることにした。白文を入力したら、返り点を打つべき箇所に「レ」「一」「二」などと入力する。それぞれを選択したら、「書式」「文字割付」「上下付き文字」と移動し、「下付き」の位置に返り点を打ち直し、サイズを50%にする。送りがなをつける場合には、「上付き」の位置に入力する。

一太郎で表示してみると、なかなか見栄えがいい。そこで、

これをePubで保存して、対応のソフトウェアKinoppyで開いてみた。返り点がちよっと大きめだが、きちんと表示されている。pdfで保存した場合には、一太郎と同じように、全く遜色のない表示がされた。

一太郎 Pad と OCR

一太郎 Pad はスマホや iPod touch などで作成したメモを、一太郎に取り込むためのアプリで、見出しやルビ、傍点のタグを打ち込んだテキストファイルを、自動で一太郎にレイアウトされた形で表示させられる。パソコンと端末のデータのやりとりは、自宅の Wi-Fi を使用する。

一太郎のユーザーには非常に便利なアプリで、高度な OCR も付属している。使い方は簡単で、一太郎 Pad で文章が書かれたページを撮影するか、文字を写した写真を読み込んで、縦横の向きを調整したら、完了のボタンを押すと、オンラインで文字を分析して、iPad 一太郎に表示してくれる。一太郎のユー

ザーなら、一太郎と同期して、データを読み込ませる。その際に、誤字のチェックや、半角スペース、改行の処理など、指定した通りに行ってくれる。傍点や傍線、ルビは読み込まない仕様になっている。

以前ならコンビニへ行ってページをスキャンし、それを有料の OCR で読み込んでいたのだが、一太郎 Pad ならそうした手間も費用も要らない。しかも、精度が高いので、間違った読み込みは 1% 程度なのではないか。

一太郎ユーザーでなくても、一太郎 Pad が分析したテキストを、コピーして保存できるので、一太郎がなくてもデータをパソコンに移すことができる。まあ、無料で公開したのは、便利さに引かれて一人でも多く、一太郎のユーザーになってもらい

たいからだろうが。

一太郎2021プラチナをインストールした

今まで一太郎2016を使ってきたので、久し振りにバージョンアップしてみた。一太郎 pad との連携が売りらしいが、iOS13以上でないと動かない。古く i-Pod touch にはインストールできない。

電子書籍を作成したり、編集したり、また、投稿サイトに入稿したりしている人には、便利な機能が備わっている。アウトプットナビを使えば、一太郎ファイルから ePub、pdf、画像などのほか、ふりがなや傍点のタグ付きテキストファイルへの出力ができる。また、タグ付きのテキストから、ふりがなや傍点付きの一太郎ファイルに、自動で変換することもできる。

電子書籍を編集しているうちに、エラーが出て、レイアウトが崩れることがある。一太郎で作業していると、お手上げになってしまうことが多い。そんなときは、不要なタグを除去するために、電子書籍を出力する一太郎ファイルを、テキストファイルに変換しなければならない。

ただ、そうすると、一太郎ファイルのふりがなや傍点の情報まで失われてしまう。ふりがなや傍点付きのテキストファイルに出力できれば、電子書籍のタグだけを除いて、ふりがなと傍点を自動で復元できる。そこから改めて、電子書籍の目次作成やリンク張りを行えばいいのである。

そのほか、標準ではフォントが、MS明朝から游明朝に変更されたこと、Windows 10のバグだった、三点リーダーやダッシュ

が、縦書きで横向きになってしまう問題が解決された点などが挙げられる。

そこまでは一太郎2021とATOK単体についてである。プラチナを購入したのには理由がある。まず、「新明解国語辞典」「新明解類語辞典」が付属していること。個人的な語釈をする国語辞典と、文章表現に役立つ類語辞典。ちなみに、後者は僕が所属した中村明研究室のメンバーが中心になって、語釈を作成した辞典である。そのうちの数パーセントは僕が書いたものなので、電子化されたことで、日常的に使ってみたいと思ったのだ。

PDF作成や変換が可能なJUST PDFは、ロックがかかってい

ない PDF からテキストファイルを抽出したり、PDF を分割したり、合体させたりするのに役立つ。文字読み取りソフトが作成した PDF ファイルから、電子書籍のデータにするテキストを抜き出すには便利である。

文字読み上げソフトの詠太も、性能が上がっている。読み上げの際に、地の文と会話文、日本語と英語の読み手を指定することができる。ただし、会話自体は単一の音声で読むのであり、男言葉や女言葉で読み手を自動で振り分けるわけではない。日本人男女の読み手には、それぞれアナウンサーのような落ち着いた声と、大学生のような若々しい声が準備されている。英語の読み手は若い女性である。「どこでも詠太」の機能を用いれば、クリップボードにコピーするだけで、自動で読み上げをし

てくれるので、ニュースやブログ、メールなど、何でも詠太に読んでもらえる。

そのほか、グラフィックソフトの花子2021、エクセルファイルを扱う JUST Calc、パワーポイントファイルを扱う JUST Focus がついてくる。

詠太の読み上げ機能について

一太郎2021プラチナ版には、日本語読み上げ機能の「詠太11」が付属している。「詠太」については、数年前から使用してきたが、その進化には目を見張るものがある。

若干の読み違いはあるものの、誤りは数%以下ではないか。固有名詞の多くも読み上げることができ、アクセントもかなり自然である。男性話者2名、女性話者2名、英語話者1名が登録されており、性別だけでなく、落ち着いた中年話者の声や明るい若者の声を、内容やその時の気分で選択することができる。

日本語と英語、地の文と会話文を読み分けることも可能である。ただし、会話文を男と女で読み分けることはできない。男

言葉か女言葉か、ソフトウェアに判断させるのは至難の業だからだろう。

登録されていない言葉は、ユーザーが品詞別に登録していく。動詞の場合、五段動詞と一段動詞の違いも。その際、アクセントが下がる直前に、アクセント記号^を挿入すると、自然な発音をしてくれる。

「どこでも詠太」をタスクバーに登録すれば、読ませたい文章ならネットの文章でも、メールでも、テキストファイルでも、コピーするだけで、クリップボード経由で読み上げてくれる。

ただし、同じ表記を文脈で読みわけることは苦手で、「報告に東京へ行って」と「報告を東京で行って」の区別がうまくいかない。数十年前は「行う」は「行なう」と表記していたが、

「行う」に改めた結果、「行く」も「行う」もテ形が「行つて」になってしまったからである。「荷物を鞆に入れる」と「今なら部屋に入れる」は、うまく読み分けられない。「子供を抱く」は読めても、「希望を抱く」は読み間違える。挿入された句を分析したり、コロケーションを判別する機能が不十分なため、バージョンアップでの改善が望まれる。

自分の書いた文章を、正確に読ませたい場合は、一太郎で文章を書き、単語登録しても読み間違える箇所は、ルビをつけることで読み違いを回避することができる。ただし、ルビをきちんと読んでくれるのは一太郎だけである。

一太郎に付属する「詠太」は、かなり精度が高いので、入力した原稿を読み上げさせることで、誤植のチェックばかりでなく、文章を耳で聞いてどんな印象が得られるか確かめている。文章の善し悪しは、耳でも確認しておく必要がある。

ただ、「詠太」でも読み間違えることがある。一太郎で主語にルビをつけると、係助詞の「は」を「ワ」ではなく「ハ」と読んでしまう。語順が入れ代わっていると、読み間違えてしまう。直前の助詞で両者を区別しているからだろう。

新たに語を登録しようとしてもできないことがある。国名の「清」を「地名」として登録しようとしても、人名の「キヨシ」と読んでしまう。「シン」と登録しても、「清の皇帝」を「キヨシのコウテイ」と読んでしまう。

個人で登録できる語数に制限があるので、登録可能な

語数を増やしてほしい。自分は「一太郎」で文章を推敲するのに重宝しているが、人によってはルビがついた pdf も、ルビがきちんと読めるようになってほしいと思っっているだろう。あと、改善された場合は、一太郎の「詠太」もアップデートしてもらいたいものだ。

「詠太」の読み上げ機能は、HOYA 株式会社が開発しており、読み間違いをする単語や例文の情報を収集している。自身で気づいたことがあったら、このリンクのページで登録すれば改善が期待できるだろう。

ところで、こうした読み上げ機能は、人物の発音のサンプルを録音して、それをコンピューターで合成しているのである。

詠太の人物はアナウンサーのように、曇りのない声をしている。現在は限られた人物の声しか選択できないが、会話文にタグをつけることで、男女の会話らしく、読み上げ人物を切り替えさせたら面白いだろう。

さらに、作家の声からサンプリングして、自作朗読のようにさせたり、個人にサンプリングの音声を送らせて、有料で読み上げ人物を追加できるサービスがあっても良いだろう。家族や恋人の声をサンプリングして、身近な人に読んでもらっているように楽しめれば、それなりの需要はあると思うのだが。

電子書籍を小冊子にする

僕はアップル・ストアから podcast を出している。スマホや iPad 向けに ePub を、パソコン向けには pdf をアップロードしている。普通はそれで十分なのだが、コンピュータを扱わない人に見てもらうには、印刷して渡す必要がある。

以前、僕は自身の電子書籍を業者に頼んで、数部印刷してもらった。それなりのページ数があるなら、業者に頼まなければならぬのだが、ごく薄い枚数だったら自分で小冊子を作ればいい。

まず、印刷用の pdf ファイルを作る。その際、1ページの画面に1ページだけ表示されるように、電子書籍を設定し直す。

目次のページ数もそれに合わせる。表紙のページは別ファイルの pdf しておく。

コンビニで印刷する場合、用紙をA4に設定すると、小冊子で完成した形は半分の大きさになる。小冊子としての設定は、縦書きの場合は右とじとする。裏表印刷で重ね合わせて折ると、製本した時に順番になるようにページが割り振られる。表紙だけはカラー印刷にして、やはりA4の紙で小冊子の設定にする。出来上がったものを重ね合わせ、二つ折りにしたら、製本用のホッチキスで、折り目を留めれば完成である。

画像のある電子書籍

画像のある電子書籍を「太郎」で作る場合、pdf形式を選択すれば、固定レイアウトで出力される。パソコンで表示することが前提なので、編集したイメージで見てもらえる。

問題はePub形式で製作する場合である。画像を含む書籍の多くは、固定レイアウトが選択される。その場合、デザインが最優先されるので、文字も画像化されて、文字列を検索できないという問題が生じる。その一方で、著作権保護という観点からは、盗作されにくいという効果がある。

画像を含むePubをリフロー形式で出力すると、文字はそれぞれの機器に合わせた形で表示されるが、画像が途切れたり、

不必要な余白が空いてしまったりする。

では、リフロー形式で、かつレイアウトを崩さない方法はないのだろうか。画像を挿入したい箇所にはリンクを張って、文末に画像をまとめて挿入する。各画像の下には、元の本文の箇所に「戻る」ためのリンクを張っておけばいいのか？

ところが、実験してみると、本文はきれいに表示されても、文末に並べられた画像と、説明の文句の間にスペースができてしまったりで、どうもうまくいかない。

結論から言うと、画像を含むePubを作る場合、固定レイアウトにするしかない。スマホで表示した場合を考えると、フォントは18ポイント程度、ゴシック体だとはつきり見えるが、画数の多い文字は潰れてしまう。明朝体だと文字がかすれてしま

う。紀伊國屋書店の電子書籍アプリ「Kinoppy」（PC版）で表示すると、拡大の場合はパソコンで、デフォルトの場合はスマホで、どのように表示されるか分かる。

実際に画像を載せた固定レイアウトのePubを作成してみたが、必ずしも読みやすいとは言えない。読者がiPhoneで読むのか、iPadで読むのか、パソコンのKinoppyで読むのか、ブラウザにプラグインを入れて読むのか、皆目見当がつかないからである。

最も多いのはiPhoneだろうから、それに最適化して作るとしよう。固定レイアウトは画像を含むページばかりでなく、文字だけのページも画像化してしまう。美しい写真や挿絵を多数

収録した場合、低スペックのスマホでは開けなくなってしまう。文字を画像化するため、明朝体ではかすれてしまう。そこでゴシック体で画像化することになるが、今度は画数の多い漢字が潰れて見えない。ルビもほとんど読めない。固定レイアウトのePubは、漫画や図鑑など文字がわずかで画像が大部分の書籍に向いているのである。

文字中心の電子書籍なら、リフロー型のePubの方がいい。極端に重くなることがないから、低スペックのスマホでも、ページ数の多い書物を読むことができる。ただ、リフロー型に画像を挿入すると、レイアウトが崩れてしまったり。目次に表示されるページ数と、実際のページ数がずれてしまったり、弊害が大きいのである。

だとすると、画像が多く挿入された作品は、固定レイアウトで出力しなければならぬことが分かる。それなら、固定レイアウトの ePub なんかもやめてしまつて、pdf で電子書籍を作ればいいという話になる。pdf は表示の大きさを調整できるし、パソコンの画面には大きな差がない。明朝体でもきれいに表示されるし、文字検索も可能である。圧縮してくれるので、ファイルの容量をそれほど気にしなくてもいい。

文字だけの作品から、ePub や pdf を作成した場合、ePub の方がはるかに容量が大きい。ましてや、画像を多数含む全ページが画像化されたら、10メガを超えてしまうだろう。結論と言えるのは、同一の作品であっても、ePub には文字情報のみを載せ、pdf には文字とともに画像を含めて編集するというもの

である。

部屋の片付けをしていたら、長年行方不明だった旅行の写真が出てきた。電子書籍でも、写真があった方が見栄えがする。ただ、リフローの形式だとレイアウトが崩れてしまう。固定レイアウトで、かつ文字の検索ができて、明朝体でも読みやすいのは、ePub ではなく pdf である。

そこで、とりあえず、pdf の電子書籍を写真付きに作り直すことにした。電子書籍で目次などの情報を埋め込んだ一太郎ファイルだと、増補したり、写真を挿入したりすると、目次の情報が邪魔をして、電子書籍のレイアウトが崩れる恐れがある。そこで、いったん、テキストファイルに戻す必要がある。

ただ、機械的にテキストファイルにすると、あとでルビや傍点を付け直すのに苦勞する。そこで、電子書籍用に編集した一太郎ファイルを、アウトプットナビの「小説投稿」から、「親文字《ふりがな》+《《傍点》》、または「親文字《ふりがな》+傍点《・》で出力する。テキストで出力することで、エラーは排除され、かつ、ルビと傍点の情報は保存されるというわけである。

次に、ルビ情報付きのテキストファイルを、一太郎で自動的に読み込むために、「オプション」の「ファイル操作」で、「テキストファイル読込時にふりがなを自動に設定する」を「する」にしておく。ふりがなが自動につけられたら、電子書籍の文書スタイルに直して、一太郎ファイルとして保存する。

挿入する写真は、現像した写真の形で残っていた。使いたい写真を選択したら、コンビニのコピー機でスキャンする。写真をA3の範囲にきれいに並べたら、データをUSBメモリに保存する。

自宅に戻ってから、フォトレタッチソフトで、**jpg**形式から**bmp**形式に保存し直す。一枚一枚に切り離して加工する際に、**jpg**のままだと画像が劣化してしまうからである。切り離したら、フォトレタッチソフトの **irfunView** で、「色の自動調整」と「鮮明化」を行う。

一太郎ファイルを開き、画像を挿入したいページを空けたら、画像枠で **bmp** のまま貼りつける。位置が確定したら、貼りつけた画像の上で右クリックし、「画像のデータサイズを縮小」

し、「画像の形式を変換」で、png にする。jpg よりも画像がきれいだからである。

画像を貼りつけるだけでは能がないので、「挿入」から「レイアウト枠」の「作成」をクリックして、「横組」を選んでOKを押す。画像に関するコメントを一言付け加えればいい。

画像のある電子書籍は、読みやすさや文字を検索できる点を考えると、ePub より pdfの方が優れている。ePub で作る際の問題点は、画像の解像度を高めると、スマホのメモリでは開けなくなってしまうという点である。また、画面にきちんと収まるように配置しないと、エラーが出てしまう。

ただ、podcast のダウンロード数を見ると、スマホで ePub 形

式の電子書籍を読んでいるユーザーが多い。とりあえず、pdf で作ったら、ePub 形式も準備した方がいい。

一太郎で画像を取り込む際には、ページから画像がはみ出さないようにするのが、一太郎の表示を縮小したままどうまくいかなない。表示を100%に戻して、画像の大きさを調整すること。

リフローの場合は、ページ数は指定しないが、固定レイアウトの場合も、一太郎では指定しないほうがいい。というのも、アプリの方でページ数は指定するので、一太郎側で指定した数字と、アプリで表示した数字がずれてしまう恐れがあるからである。

固定レイアウトで ePub を作成する場合、文字だけのページ

も画像化される。それによって、文字検索はできなくなる。もし Amazonなどで販売する場合は、文字は埋め込みにしなければならぬ。一太郎は対応していないので、別のソフトウェアを使う必要がある。

文字を埋め込みにする場合、多くのフォントでは別途に使用料を支払う必要が出てくる。というのも、固定レイアウトで文字を埋め込むと、ePub からフォントを抜き出すことも可能だからである。

podcast に出すだけなら、文字が画像化されていても構わないが、ここで問題になるのもフォントである。MS 明朝を画像化すると、文字がかすれて読みにくくなってしまふ。MS ゴシックにすると、細かい画数の字がつぶれてしまふ。

画像化しても文字が潰れず、しかも読みやすいフォントはなにか。お勧めのフォントは、IPAanj 明朝である。社団法人文字情報技術促進協議会が公開しているフォントで、人名の表記など細かな字形の差異に配慮しており、商用や通信にも使用できる。表示の美しさを保ちつつ、画像化してもかすれない。画像化したフォントを確認してみると、スマホでは本来のフォントと、ほとんど変わらない。

おわりに

電子書籍の作成から公開するまで、僕が知る限りの情報はすべて述べた。不明な点があれば、インターネットで検索していただきたい。今回、作成した電子書籍は、ここで述べてきたように、Secaa の僕のブログに連載した記事をもとにした。皆さんもぜひ、自身の電子書籍をインターネットで公開して、情報を発信する喜びを味わってみてください。

159

第四版においては、「一太郎2013女」に対応したePubの「固定レイアウト」や、アマゾンの読書端末Kindle用のmobiファイル、プレミアム版についている読み上げ用アドオン「詠太」などについて加筆した。

第五版においては、「一太郎2016」で追加された機能のほか、ePubの固定レイアウトとPDFの違い、ePubの脚注の問題、「詠太」のアクセント記号と、他の読み上げソフトの機能、さらに、書籍を再編集する場合の注意などについて加筆した。古くなった情報は削除し、リンクが古くなったものは張り直した。

160

二〇一六年二月十六日

高野敦志

かなり長い間、古い版のまま放置していたが、その間に電子書籍に音声を付けたり、写真を多く収録した電子書籍を、固定レイアウトに作り直したりした。また、三点リーダーやダツシユが、縦書きで横倒しになる問題なども、解決する方法が分かった。第六版ではそうした情報を増補するとともに、内容があまりに古くなった記述は削除し、リンク切れしている部分に関しては、リンクを改めて張り直した。

一太郎に関しては、現在一太郎2023が発売されているが、僕は一太郎2021を使い続けている。理由としては、一太郎2021まで付属していた買い取り版のATOKが、一太郎2022以降ではサブスクリプションで、定期的に使用料を払う方式に変わってしまったという問題がある。その関係で、今回アップデートし

た内容は、一太郎2021に関するものまでとなった。

二〇二三年七月十三日

高野敦志